

事 項	特産果樹に発生した果樹カメムシ類の被害症状		
ね ら い	平成13年に県南地方ではチャバネアオカメムシが5月中旬から9月中旬まで発生し、断続的に特産果樹が加害された。本県では、これまで果樹カメムシ類による加害はまれであったため、被害の認識が遅れた。そこで、特産果樹における果樹カメムシ類の被害症状を提示し、防除意識の向上を図るとともに被害判別を行うための参考に供する。		
指 導 参 考 内 容	<p>1 主に加害した果樹カメムシ類 クサギカメムシ、チャバネアオカメムシ</p> <p>2 被害症状</p> <p>(1) おうとう 「佐藤錦」：幼果では吸汁された部分及び果肉部分は褐変する。成熟果は吸汁された部分は激しく変形。果実は着色するが、皮下に褐変が見られるものもある。 「サミット」：「佐藤錦」と同様の被害が発生。7月上～中旬の収穫時には変形はしないが果実にくぼみがみられ、被害部分の果色には変化がない。</p> <p>(2) なし ア 果実形状 果実の片面に、果梗直下からがくあ部にかけて著しく陥没し、果形が変形。吸汁部分が暗褐色のカサブタ状あるいはその部分が亀裂する。果梗直下にこれらの被害が発生すると果実の肩部分が発育不良。 果実の肩から赤道面にかけて、明瞭なくぼみ。 果実全面に境界の不明瞭な浅いくぼみができ、凹凸果実となる。</p> <p>イ 果肉の被害症状 吸汁されくぼみができた部分は、果肉が褐変し、一部にはコルク化する。日本ナシは果実肥大終了後の加害で吸汁部の果肉はスポンジ状になり浅くくぼむ。 西洋ナシは被害を受けた部分は硬化し、追熟後の果肉は、摂食時に被害部分に当たるときわめて不快な食感。</p> <p>(3) もも 幼果期の加害で吸汁部分が陥没し奇形果になる。 収穫時の加害では、吸汁部の果肉はスポンジ状になりくぼむ。</p> <p>(4) うめ・あんず 果実の吸汁場所からヤニがでる。また、加害された部分は陥没する。</p> <p>(5) ぶどう（スチューベン） 果実への被害はないが、収穫時期が遅い「スチューベン」では果房内に越冬するために進入する場合がある。</p>		
期待される効果	果樹カメムシ類の防除対策が図られる。		
利用上の注意事項	<p>1 おうとうやなしではホウ素欠乏症状、西洋ナシではセイヨウナシくぼみ果病と酷似するものがあるので注意する。</p> <p>2 果樹カメムシ類は、発生量や発生時期の年次変動が激しいので、防除を行う際には発令される情報に十分留意する。</p>		
担 当	青森県りんご試験場県南果樹研究センター 病虫肥料部 青森県畑作園芸試験場 病虫害防除室	対象地域	県下全域
発表文献等	平成11～13年度 青森県りんご試験場県南果樹研究センター成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】



写真1 おうとう幼果の被害  
(注) 佐藤錦

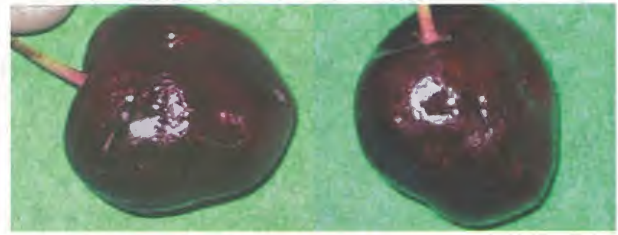


写真2 おうとう成熟果の被害  
(注) サミット

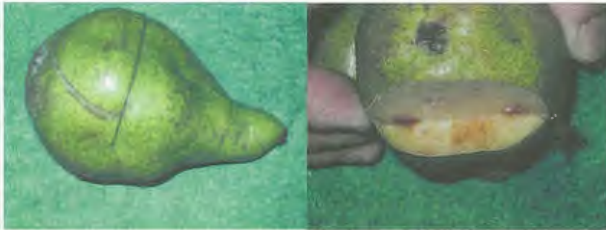


写真3 西洋ナシの被害  
(注) パートレッド



写真4 日本ナシの被害  
(注) 幸水

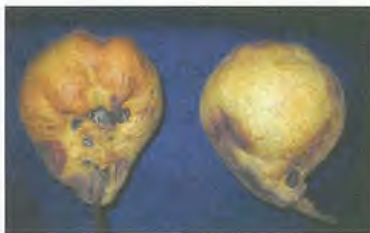


写真5 西洋ナシの変形果  
(注) ドワイエネ・デュ・コムス



写真6 ももの被害  
(注) 白鳳



写真7 あんずの被害  
(注) 新潟大実



写真8 ぶどうの果房内に進入したチャバネアオカメムシ  
(注) スチューベン

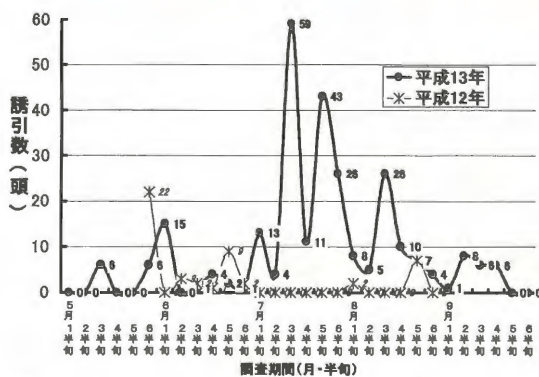


図1 チャバネアオカメムシのフェロモントラップによる誘引消長 (平成12~13年 青森りんご試県南果研セ)

(注) 1 設置場所：五戸町扇田  
2 設置日：H12/5/20、H13/5/1

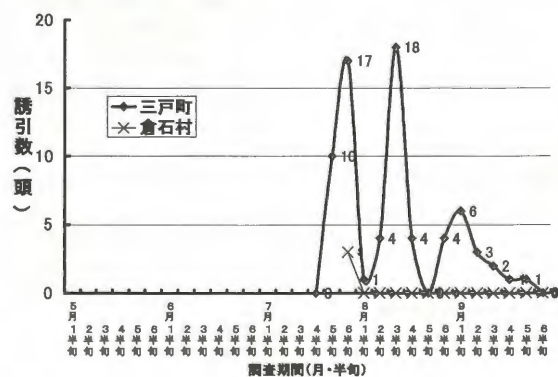


図2 チャバネアオカメムシのフェロモントラップによる誘引消長 (平成13年 青森畑園試)

(注) 設置場所：三戸町関根 (7/20設置)  
倉石村又重 (7/31設置)